

景況レポート

(6月分・情報連絡員 80名)

復旧支援、節電対策により

一部業界に持ち直しの動き

【概況】6月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが5.1%(前月調5.0%)、「悪化」が57.0%(同66.3%)で、業界全体のDI値は-51.9となり、前月調査と比較して9.4ポイント上回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-41.9で前月調査(-50.0)に比べ8.1ポイント上回った。また、非製造業全体は-58.3で前月調査(-68.8)と比較して10.5ポイント上回った。

個人消費は引き続き節約傾向にあるものの、節電に対応した涼感衣料や、省エネ家電等の需要が伸びている。また、仮設住宅建設に関連して現地向け作業員の要請があるほか、製材関係も動いている。一方、県内は、公共工事発注の遅れ等から関連業界の景況が低迷しており、被災地優先による本県産業の空洞化を懸念する声が強まっている。(回答数：79名 回答率：98.8%)

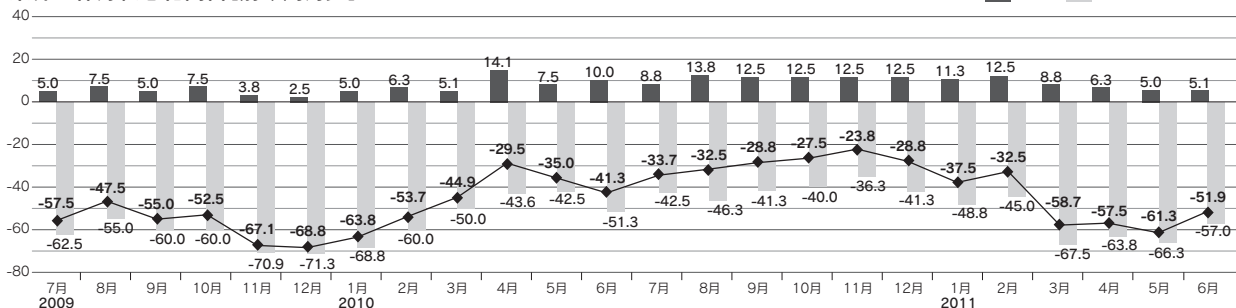
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業	☁	☁	☁	☁	☁	☁
非製造業	☁	☁	☁	☁	☁	☁

【凡例】

 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

パン製造	6月の売上は前年同月と同様であったが、小麦粉を初めとするパンの原材料が軒並み値上がりし、収益状況が悪化している。7月から小売価格を5~7%値上げするが、売上への影響が心配である。
清酒製造	5月の清酒出荷量は、前年同月比108.1%で推移した。東日本大震災復興支援キャンペーンにより、各地で東北地方の清酒の取り扱いが増えている。
繊維工業	ニット製品の工場が夏物の最盛期に入り、受注が増加している。節電やクールビズへの対応により、Tシャツ、ポロシャツ等の生産が増加して、納期に追われている。反面、布帛(ふはく)工場は、自粛や買い控えから、ジャケット等の高級品の受注が著しく減少している。
一般製材	6月は板材が堅調に動いていることに加え、良い材料が入り役物製品も動いたため、数量は前年並みでも売上は大幅に増加した。今後、被災地では確実に住宅の需要があることから、今後の見通しとして、回復基調にあると感じられる。
漆器製造	漆器の需要は伸び悩んでいるが、大震災の影響で漆器や仏壇の修理の依頼が多くなってきた。
自動車販売	6月の新車販売台数は、登録自動車2,097台(前年同月比62.1%)、軽自動車1,948台(同74.6%)で、合計4,045台(同67.5%)であった。メーカーの生産が震災前のレベルに回復しつつあり、登録台数の落ち込み幅も徐々に縮小してきている。
石油販売	ガソリン1ℓ当たり144円で前月比10円引き下げ、軽油1ℓ当たり127円で前月比6円引き下げ、配達灯油は18ℓで1,719円と前月比61円の引き下げとなった。前月末から市況の崩落が進み、マージンが確保出来ない状況にある。
商店街	【秋田市】大震災による自粛ムードは徐々に和らいできているが、一般消費は依然として買い控え感が根強く、消費単価も低い。厳しい状況での小麦粉の値上がりで今後の営業継続に不安を漏らす組合員も多い。 【鹿角市】6月に入り、売上は前年同月比で減少幅が拡大している。観光客も激減しており、大震災の影響が続いていると思われる。
旅館	状況は緩やかな改善傾向にあり、6月の売上は前年同月比4割くらいであったが、震災後に雇用調整を行っており、これから忙しくなっていくのに、一旦解雇した人がまた働いてくれる保証も無く、県外の派遣会社に依頼したところもある。なお、高速の無料化が終了してから個人客の動きが鈍いように感じている。
管工事	現在、一部組合員が被災地で仮設住宅を建設しているが、インフラ復興については先が見えない状況であるとのこと。なお、県内の新築工事は低調である。